

ふるさと

第36号



絶滅危惧種 キンラン

目次

2022 第1回麻生ふるさと交流会	
【定期総会】【朗読会】	(1)
第2回麻生ふるさと交流会	
【登戸研究所見学会】	(4)
第3回麻生ふるさと交流会	
【講演:麻生区の地名を探る】	(6)
講演要旨:麻生区の地名を探る	(8)
キンランとギンラン・絶滅危惧種	(10)

発行:2023年4月29日(第36号)
発行:麻生ふるさと交流会事務局
担当:平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：平塚 征英 さん
タイトル：絶滅危惧種 キンラン
年 月 日：2023年4月16日
場 所：東生田緑地・日向山

キンランは環境省の絶滅危惧種に指定され、盗掘なども多いため、近くでお目にかかる事は珍しい。

生育にはキノコの菌が関係していて、自宅に持って帰っても咲かせる事は殆ど不可能とのこと。

2022年度第1回麻生ふるさと交流会

第10回麻生ふるさと交流会定期総会

場所:麻生市民交流館やまゆり

日時:令和4年4月30日(土)

13:30~16:00

参加人数:20名、議長に委任10名

第1部:第10回(2022年度)定期総会(13:30~14:00) 司会 辻村さん

【開会の挨拶】:辻村副会長

- ◇ 本日の総会は会員数43名中30名で成立します。
- ◇ 第10回定期総会を無事開催することができました。
- ◇ 最近のニュースは、コロナ・ウクライナ・観光船の事故・円安で物価が上るのが心配です。



辻村さん



参加者の皆さん



宮本さん

【2号議案】 収支報告 吉田さん

- ◇ 資料の通りです。
- ◇ 白石さんより4月7日に会計監査をしました。



吉田さん

【1号議案】 活動報告:宮本さん

- ◇ 配布資料の通りで、昨年の総会と第2回の講演「どうなるオリンピック」と、「北海道北東北縄文遺跡群」はZoomでも行いました。

- 1号議案・2号議案が承認。

【3号議案】 運営委員の選出

- ◇ 今日の参加者で運営委員に参加したい方をお願いしましたが、参加していただける方はいませんでした。

【4号議案】 活動計画(案)

- ◇ 本日の定期総会ほか各種講演を検討する。
- ◇ また、会報を年4回ほど発行し、ホームページを随時更新します。

【5号議案】収支予算(案)

- ◇ 配布資料の通りとし、今年度も会費の徴収はしないこととする。
- 3号議案・4号議案・5号議案が承認。

以上を持ちまして定時総会をお開きとします。

第2部:朗読会:萩原みどり様ほか(読み語り和音) 14:10~15:50

① 朗読:富嶽百景(太宰治) 萩原みどり様による朗読



萩原さん



富士には月見草がよく似合う

- ◇ 富士には月見草がよく似合う、というセリフで有名ですね。
- ◇ もともと、太宰は富士山というものを俗っぽい、美しくない、イメージだけで賛美されているものと思っていました。

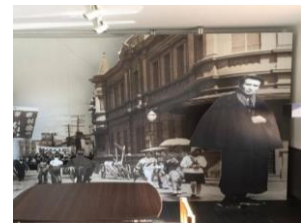


天下茶屋からの富士山

- ◇ 井伏鱒二氏のもとで数日過ごした後、その仲介で甲府の令嬢とお見合いをすることになり、太宰は結婚を決める。



井伏鱒二



湯村温泉の太宰治

- ◇ 周りの人々との交流や配慮にユーモアや思いやりが芽生えてきます。
- ◇ 明らかに、富士山によって太宰の心が変わったのだ、ということ、を、さまざまな体験と絡ませながら、見事に富士山的美しさを描き出しているのです。



三ツ峠



雪化粧の富士山

- ◇ 素晴らしい朗読でした。

② 朗読劇:「転生」(志賀直哉)

出演:志田徳雄・松崎朝子・田苗洋子様



志田・松崎・田苗さん

- ◇ 気の利かない細君と我儘な夫との、どこにでもあるような家庭のお話。

③ 朗読劇:「あるある電車」(東野圭吾)
出演:「よみ語り和音」百合ヶ丘教室の皆さん

- ◇ あるある電車の出発です。
- ◇ この場面は午後8時過ぎの小田急線、相変わらず混雑をしています。



- ◇ この話に現役時代を思い出す。
- ◇ 当時は帰りの電車は新聞を広げる人、週刊誌を買ってみる人、ずいぶん変わったものだ。
- ◇ 右を向いても左を向いてもスマホ、スマホ、現代の光景を思い出させる朗読劇であった。

- ◇ シルバーシートの4人掛け、確かに4人座れるのだが、今どきの人は大きい。
- ◇ 一人下北沢辺りで降りたのか、一人分とは言えない隙間ができ、そこにご婦人が座り込んだ。近頃のご婦人は大きい、あるいはお尻は男より？



観客の皆さん

2022年度第2回イベント【登戸研究所見学会】

2022年度第2回イベントの11月19日は、コロナ第7波は収まったものの、再度感染者数の増加が懸念された。

やまゆりの利用制限が継続することもあり、登戸研究所見学会が3年ぶりに再開されるとの情報があって、第2回イベントの行事として採用した。

11月19日は月2回の開催日の一つにあたるが、募集の開始時間13時からの予約は既に満員だったので、午前中の別コースを申込み事が出来た。

募集人員は10名以下であるため、まずは予約手続きを優先的に行い、後日参加者を募集することにした。

企画サイドの予想とは異なり、参加者は中々10名に達せず、最終的には外部からの2名を加えた9名が参加者となった。やはり、見学経験者が多かったためでしょう。

旧日本陸軍が秘密戦の兵器や資材を研究・開発するために設置した登戸研究所。皆さん既にご存じのことでしょう。

向ヶ丘遊園駅からは明大正門行きのバスに乘車。守衛室で受付をしてから、構内を歩いて登戸研究所資料館へ。



守衛室



登戸研究所資料館

ガイドの学芸員さんが記念館の展示の説明や学内遺跡の案内をして下さった。

資料館では最初に、映像「蘇る登戸研究所」ビデオを観賞し、全体的な事を改めて理解した。

続いて第一展示室～第五展示室について説明して頂いた。



ビデオ鑑賞：蘇る登戸研究所



本日の予定



第一展示室：研究所の全容



第二展示室：風船爆弾



第三展示室：生物兵器・毒物・スパイ機材



第四展示室：偽札製造



第五展示室: 移転・占領政策との関係



旧登戸研究所本館前帯



展示室の見学後に、研究所の面影を残す学内遺跡を見学した。



陸軍軍標: 他地区から移転



弥心神社



登戸研究所跡碑



倉庫跡: 通称弾薬庫



動物慰霊碑: 裏面に「陸軍登戸研究所」と刻み



五号棟跡地: 偽札の工場跡地



動物慰霊塔前で集合写真



消火栓: 学内に数ヶ所残る



見学終了後には向ヶ丘遊園駅まで歩き、駅前のバーミヤンで、久しぶりに軽〜くイッパいの昼食会を行いました。

2022年度第3回イベント

場所:麻生市民交流館やまゆり

日時:令和5年2月25日(土)

13:30~16:00

参加人数:27名、内7名は会員外

【開会の挨拶】 会長不在の為、辻村副会長の挨拶。

- ◇ 最近のニュースでウクライナの事など、中々進展しないですね。
- ◇ 気になる新聞記事です。日本には島はいくつ位あるでしょうか？公には685位と言われていましたが、今年の国土地理院の調べでは14,125ほど。衛星の画像分析で分かりました。
- ◇ 島とは外周100m以上で、島の名前は誰が付けるのか？
- ◇ 今回の麻生区に地名のテーマとして関心がありました。
- ◇ 宮本事務局長より:
 - 今回の交流会で数名の新しい参加者があり、会の概要や今までの活動などを説明しました。
 - 次回は総会となりますが、通常の総会のように皆様が集い、お酒の一杯も出来れば良いですね。

第1部:会員の発表:「麻生区内の気になる地名」

- ◇ 会員の平塚様による麻生区の珍しい地名調査の話。



- ◇ 調べる発端はバス停の「吹込」と「日光」
- ◇ 麻生区の珍しい地名について、運営委員6名に写真を撮って頂き、それをまとめました。



- ◇ 気になる地名:化粧面・般若面・日光・日吉
- ◇ 松がつく:弘法の松公園・鶴亀松公園・這松調整池
- ◇ 餅がつく:餅坂・餅井坂
- ◇ 寺がないのに:万福寺・真福寺
- ◇ 山中なのに海道:海道なかよし公園

第2部:講演【麻生区の地名を探る】

【講師:菊地恒雄様】谷本様から紹介。

- ・長沢小学校校長他を歴任
- ・日本地名研究所事務局長
- ・川崎地名研究会会長
- ・かわさき市民アカデミー「街角の文化遺産に学ぶ」講師など
- ・主な著書:「地名と風土」(編集委員)



【講演の概要】詳細はp8の「講演要旨」参照。

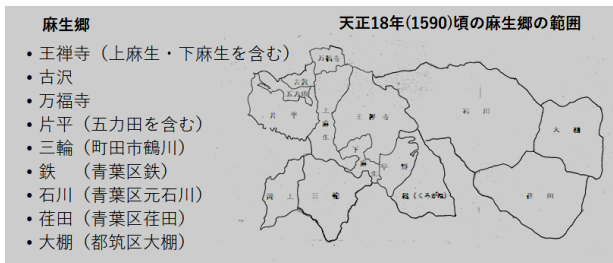
◇ 麻生の地名の由来

カラムシ (苧麻)

夏刈 (ナツカリ)



◇ 麻生郷: 王禅寺の支配関係と一致、麻生区と青葉区に分かれた。



◇ 多摩区からの分区: 公募では8,777通の応募中8番目の麻生区となった。

地名は公募で選ぶべきものではない。

◇ 地域に残る地名の謂れなど隠されたヒントが昔からの地名にはあります。

◇ 片平: 片側に開けた土地

◇ 五力田: 5人位で耕す小さな土地

◇ 弁慶の鍋ころがし

◇ 軽井沢: 濁れた沢

◇ 塔の越: 峠は村境の場合が多い

◇ 柿生: 都筑郡だった

◇ 小さな地名にもヒントが…公園・バス停・遺跡・公共施設などに、大切さが隠されている。

- 公園の名前
- バス停
- 遺跡名
- 公共施設

- 語り継ぐことの大切さ



講演要旨:麻生区の地名を探る

第3回イベント講師:菊地 恒雄

① 麻生区の地名の由来を考える

【苧麻(チョマ)・夏刈】

◇ カラムシ(苧麻)

- ・茎を晒して麻をつくる
- ・きれいな布



カラムシ:生垣に使われた 背丈を揃えた

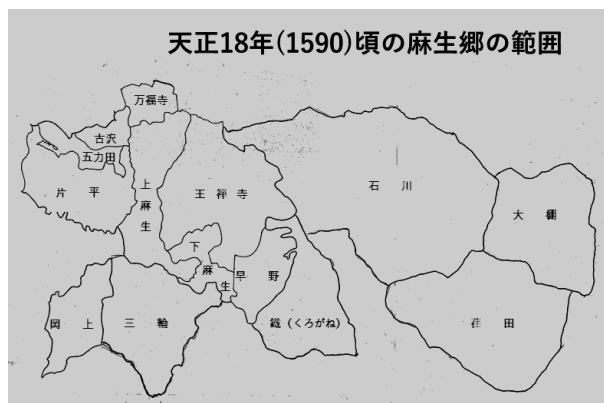
◇ 夏刈(ナツカリ)

- ・夏菟山修廣寺(片平・曹洞宗)
頼朝が狩をした(?)
- ・夏刈谷:王禅寺・真福寺谷奥にあった
- ・焼畑地名
- ・カラムシの背丈を揃えるため
- ・6月に刈り込む
- ・現在でも福島の生産地で実施
- ・越後上布の主産地

◇ アサ:ガケとのことも

【麻生郷】

- ◇ 星宿山王禅寺の支配関係と地域が一致
- ◇ 王禅寺(上麻生・下麻生を含む)・古沢・
万福寺・片平(五力田を含む)
- ◇ 三輪(町田市鶴川)
- ◇ 鉄(くろがね) (青葉区鉄)
- ◇ 石川(青葉区元石川)
- ◇ 荏田(青葉区荏田)
- ◇ 大柵(都筑区大柵)



② 多摩区からの分区

◇ 公募では8,777通の応募中8番目の麻生区となった。

- ・「柿生区」 4,256票
- ・「百合区」 436票
- ・「山手区」 268票
- ・「光区」 212票
- ・「麻生区」 156票(8位)

◇ 「麻生」は歴史的由来に価値があると区名選定委員会が判断した。

◇ 地名は公募で選ぶべきものではない。

◇ 人口のバランスから「麻生区」へ分割

- ・ 高石⇒百合丘地区へ
- ・ 細山⇒千代ヶ丘地区へ
- ・ 金程⇒向原地区へ
- ・ 東百合丘⇒長沢の一部を合せる

③ 各地区の地名の由来

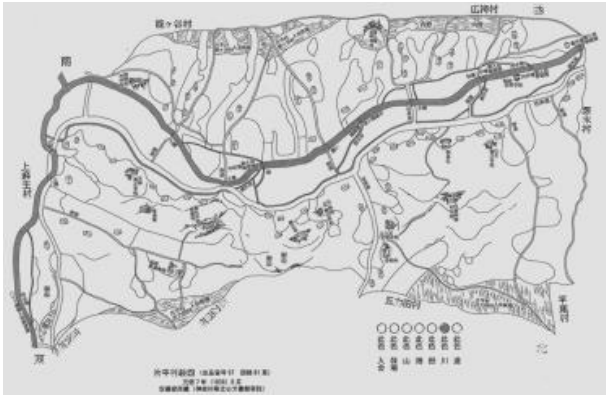
【片平の意味】

◇ 片側に開けた土地…溝の口の「片町」、
帷子(カタビラ)も同様

◇ 片平郷とも呼ばれた

◇ 新地名:栗平=栗木+片平(合成地名)
白鳥⇔白鳥神社(神社地名)

◇ この文書は、麻生ふるさと交流会第3回イベントの講演要旨について、講師の菊地恒雄様の講演データを基に、会報担当者が取りまとめたものです。



片平村

【五力田と古沢】

- ◇ 片平村の枝郷(郷帳などに)
- ◇ 麻生川の小さな支流、古沢が流れる
⇒小沢
- ◇ 五力田は五反田と同じ意で、五人で耕す
くらい小さな土地を意味する



五力田村

【早野の地名】

- ◇ 地名の由来は分からない
- ◇ 灌漑用池:7つの池
- ◇ 小字:龍ヶ谷・堀向・矢崎
- ◇ 字:富士山下(浅間神社の下部)・梅ヶ谷
(浅間神社)・広地(こうち)・上ノ原・長沢
田・境塚・中ノ谷



早野村

【細山・金程・高石は橋樹郡】

【細山・金程】

- ◇ 五反田川と麻生川の分水嶺に位置する

- ◇ 山の稜線
- ◇ 小沢原
- ◇ 金程は細山の枝村
金:土が赤い 程:窪地
- ◇ 山に囲まれた窪地の意
- ◇ 陣川(ジンカー)
- ◇ 新地名:千代ヶ丘 地権者の声

【高石】

- ◇ 高石はタケシ・タカシ
- ◇ 五反田川の源流域に位置する
- ◇ 弁慶の鍋ころがし
- ◇ 塔の越は峠の意
- ◇ 烏沢は涸れ沢の意(軽井沢)
- ◇ 猫三谷(猫実)⇒狭い土地
- ◇ 高石神社
- ◇ 新地名:百合丘(駅名が町名に)

【柿生は都筑郡だった】

- ◇ 明治22年 市制・町村制
- ◇ 柿生村外1ヶ村組合
 - ・上麻生・下麻生・王禅寺・早野・万福寺・古沢・五力田・片平・栗木・黒川
 - ・岡上 横浜分は中里村
 - ・南多摩分は鶴川村
- ◇ 産物
 - ・禅寺丸柿:江戸時代から江戸市中へ
 - ・黒川炭、養蚕
- ◇ 柿生と密接な関係
 - ・南多摩郡
鶴川村(町田市)・稲城村(稲城市)
 - ・都筑郡
中里村大字鉄・寺家(青葉区)
山内村大字荏田・石川(青葉区)
田奈村大字奈良(青葉区)

【小さい地名にヒントが】

- ◇ 公園の名前
- ◇ バス停
- ◇ 遺跡名
- ◇ 公共施設
- ◇ 語り継ぐことの大切さ

【質問に対して】

◇ 餅坂・餅井坂

- ・餅：餅のようにネっとり、粘土質のベタベタしている所・・・持田
- ・井：井戸ではなく、水の流れ



◇ 万福寺村：寺がない？

- ・医王寺の前身か？
- ・寺の浮き沈み、全く出てこない



◇ 真福寺

- ・寺が栄えなかった？
- ・王禅寺と真福寺は仲が悪かった？



◇ 柿生の住宅表示がない

- ・明治22年に以前の名前が、ムリヤリ変えられた。

◇ 日光

- ・二荒山神社⇒ニッコウ⇒日光

◇ 吹込

- ・峠からの流れ・風

◇ 日吉

- ・なぜ多い？⇔日枝神社・比叡山・天台宗
- ・稗原



◇ 松

- ・栄養が無い土地
- ・松枯れもするが残った松も多い
- ・弘法の松・・・多摩川からも見えた



◇ 鶴亀・弦巻

- ・鶴・弦・水流・都留
- ・⇒鶴の首のように曲がった所⇒鶴見川

◇ 化粧面・般若面

- ・面＝免⇒免じる
- ・お江の方のお化粧料



地名はカタカナに表して連想すると

⇒由来のヒントとなる！

キンランとギンラン～絶滅危惧種～

平塚 征英

表紙写真の説明を追加するため、ネット情報を紹介します。

キンラン・ギンランは日本の野生蘭のひとつで、同じキンラン属に属し、かつては雑木林の林下や、里山の林下の何処にでも見られた花だったが、今や絶滅を危惧される花になってしまった。

雑木林の下草刈りをしなくなって、生育環境が悪化したり、採取されてしまう為である。それでもまだ、地方によっては散歩道の途中の林下に細々と咲いており、今年は写真も撮れたが、来年も見られるかどうか危惧している。



キンラン

ギンラン

この花は「菌根菌」と呼ばれる菌類と共生する特殊な生育形態にあり、特に菌に対する依存度が強く、この「外生菌根菌」は林下等の特殊な土壤にのみ生息し、この花を採取して移植しても家庭で育てる事は不可能であるが、この時期に咲く同じ地生蘭のひとつであるエビネ類と混同されて採取されるようである。

エビネは地下茎の形を海老(エビ)に見立てて名付けられた日本の野生蘭のひとつで、比較的栽培がしやすく、人工交配によって園芸品種も多いが、やはり野生のものは採取によって激減している。



エビネのいろいろ

キンランは金色に輝く花の意味でキンラン(金蘭)と名付けられ、ギンランは花が白色で、キンランに対してギンラン(銀蘭)となづけられた。

キンランは黄色で良く目立ち、花の唇弁に赤い筋が入り、豪勢に咲くが、ギンランは地味で、花もほとんど開かない。葉が笹の形をしたササバギンランも同じ仲間、ギンランより少し大きい。

中国、朝鮮半島にも自生し、日本の各地で見られるが、この地方ではキンランのほうがギンランより見つけやすい。

